

The Danube Quarterly

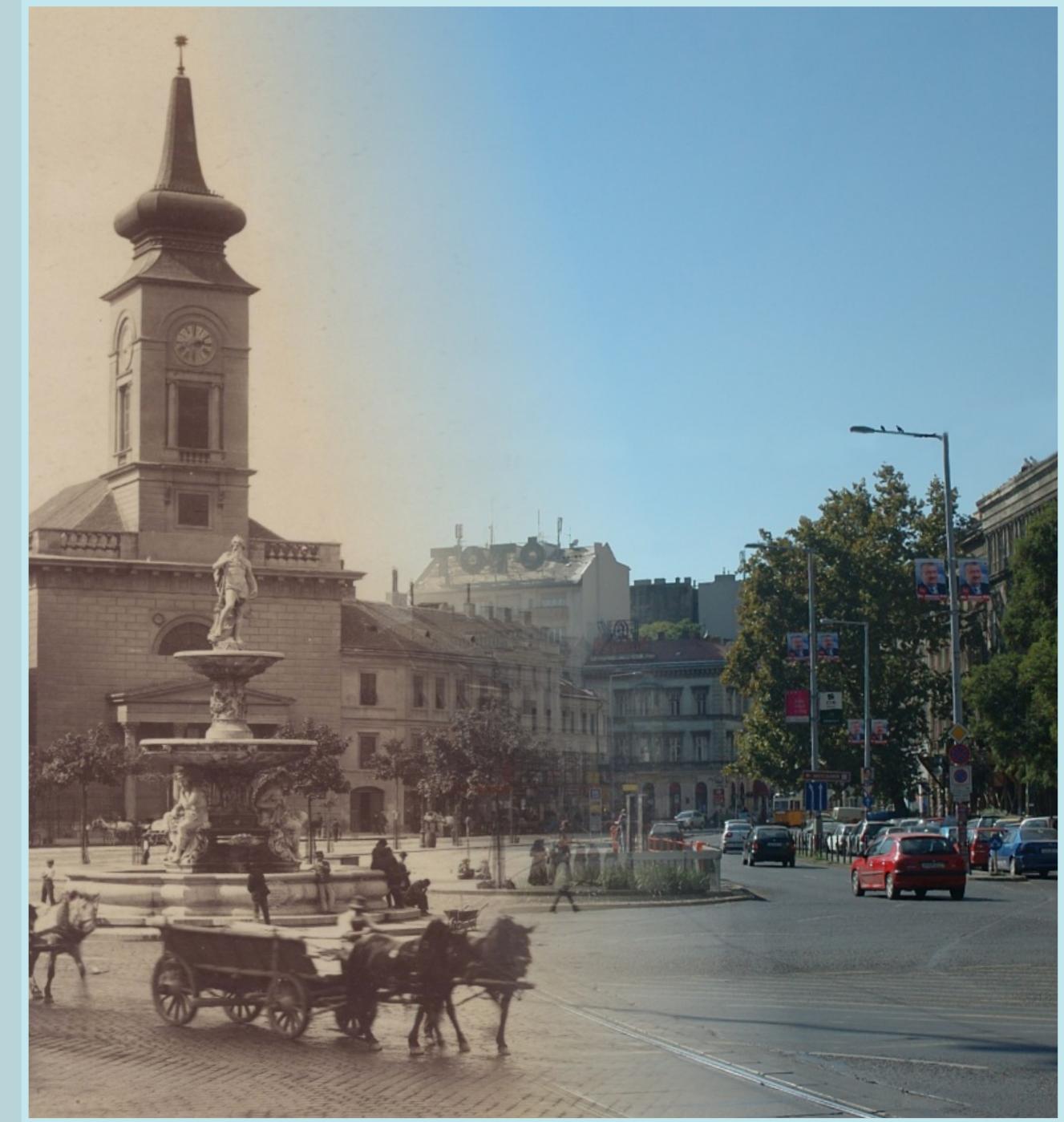
ドナウ通信



2006(平成18)年・秋季号



ハンガリー日本人会会報 / The Japanese Community Bulletin



October

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

November

S	M	T	W	T	F	S
					1	2
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

December

S	M	T	W	T	F	S
						1
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

**Cover Illustration Copyright © 2006 by Inner Design Bt, Budapest
Photo copyright © 2006 by Tamás Kármán
Edited by Tsuneo Morita
Published by Japanese Community in Hungary**

目 次

運動部情報

国際ハーフマラソンに六名出場

キロ五分

ブダペストの「厄落とし」

堪能できたレース

過去最低記録

二〇〇六年ハーフマラソン敗戦記

釣り部のその後～ご報告

秋に思ふ。。。

私のゴルフ

土曜テニス部

秋季ソフトボール大会

盛田 常夫

飯川 浩二

辻 太久郎

江渕 泰久

菅野 修

村上 義

関本 正

小山 和夫

岡崎 真二

杉本 康志

大会実行委員

17	16	14	14	12	10	9	8	5	2	1
----	----	----	----	----	----	---	---	---	---	---

日本人学校

運動会作文 足立達哉・石川由佳子・海野沙月・鬼丸祐輔・鏡浩太郎

小林亜海・杉田夏生・布留川麻衣・島戸優輝・杉田春花

三代鳴美・八代大成・小林幹・島戸美月・兼子健汰・堀川智生

みどりの丘日本語補習校

児童作文 中沢明子クララ・伊達クリスチアンネ

創作

第六話 「しろ・と・くろ」

書評資料 『コルナイ・ヤーノシュ自伝』

朝日新聞（高橋伸彰）・日本経済新聞（青木昌彦）

岩井 孝博

33

30

27

18

国際ハーフマラソンに六名出場

盛田 常夫

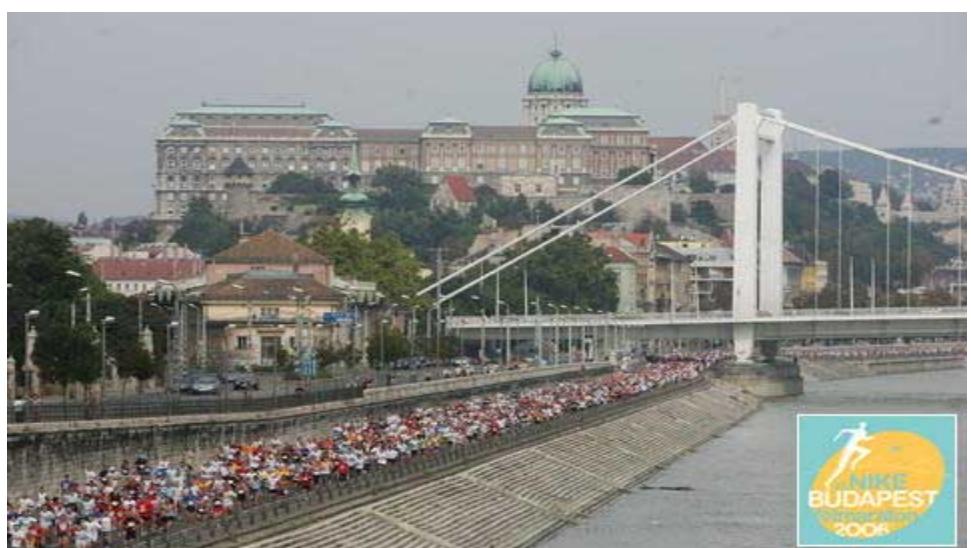
去る九月三日に開催された第二回ナイキ・ブダペスト国際ハーフマラソンに、六名の在留邦人男性が出場しました。昨年の三名から六名へと一挙に倍増です。全体の参加者は、男子三六四五名、女子一三一九名でした。

全員、無事完走しました。飯川先生は十月のフルマラソン準備の一環として参加。辻先生は人生最初のハーフマラソン。トライアスロンをやる江渕さんは、仕事の合間をぬつて参加。村上さんは練習不足で調子が悪く昨年の記録を更新できず、菅野さんもトレーニング不足で、過去最低の記録でした。

女性の参加がなかつたのは残念です。外国人で一番多かったのは英國（男子一三一名、女子五九名）で、次いでオランダ（男子一一九名、女子四一名）でした。当日夕刻、日本への出張でフェリヘジ空港へ到着したら、完走メダルを首に掛けたオランダの陽気な一団と出くわし、出国手続きに四〇分もかかりました。

記録（ネット）は以下の通りです。

盛田 常夫	一時間三二分一六秒	三八三位
飯川 浩二	一時間四四分三七秒	一〇九八位
江渕 泰久	一時間五二分三八秒	一七八二位
辻 太久郎	二時間二分五九秒	二五八〇位
村上 義	二時間三分二五秒	二六一〇位
菅野 修	二時間一九分六秒	三三六六位



ドナウ河沿岸道路を埋める参加者

ハーフマラソン参加記

キロ五分

飯川 浩二

マラソンをする人であれば、この数字が何を意味するかすぐにお分かりいただけるでしょう。キロ五分とは、「1 kmを五分で走る速さ」のことであり、昨年に引き続き参加了ブダペスト国際ハーフマラソンでの私自身のペースでもありました。

ら、ある児童は公式ごと丸暗記してこの学習を乗り切り、またある児童はこの公式から様々な応用をきかせます。その昔小学生だったみなさんの中にも思い当たる節があるのでは。ちなみに、これを書いている横で妻が「速さの勉強は大嫌いだった」と言っています。それでも、もう少しこの「速さ」についての話にお付き合いください。

以上のように、本来ならばこの公式を使って、今回私がどのくらいのスピードで走っていたかを知ることができるのは、しかし、陸上競技のほとんどで、「速さ」としての1単位時間あたりに進む道のりがな「速さ」道のり÷時間」ですね。この公式では時速、分速、秒速といつた1単位時間あたりに進む道のりを求めることがあります。そして、それを便宜的に速さといいます。小学六年生で初めて勉強したその日から

が適しているからです。

例えば、約二一 kmの道のりを昨年、私は一時間四一分で走りました。およそ時速一二・五 kmの計算となります。では今年は少し速めて時速一三 kmで走るぞと考えたところで、競技の物差しとしてはほとんど使えません。それよりも短距離ランナーが一〇〇 mを何秒で走ったかが

速さを比べる物差しであるのと同様に、長距離ランナーは「1 kmを何分何秒で走るか」が重要なになります。人間とはすごいもので、少し練習をするだけで1 kmを十一〇秒程度、慣れればほぼ誤差無く走ることができます。大会の多くで1 kmずつの標識を立てているのは、ゴールまであと何 kmかを知るためだけができます。競技ではスタートからゴールまでの道のりが決まっているので、道のりを基準にした時間で速さを比べる方

というわけで、ランナーが用いる速さの求め方は「速さ」時間÷道の

り」となり、教科書で教わる公式とは考え方が異なっているのです。

ここまで読んで、「いつたいこいつは何が言いたいのだ！」と思われた方も多いことでしょう。これだけ、くどくど説明したのは、私が今回のマラソンで「キロ五分」をものすごく意識して走ったからなのです。

かつて私はフルマラソンに一度だけ挑戦したことがあります。一〇kmやハーフマラソンでは、若かった年齢のせいか仲間内では速い方でしたので、かなりの自信をもって挑みました。しかし結果は散々。途中で膝は痛くなり、さらに太ももが筋肉痛に見舞われ足が上がらなくなる始末。「三〇kmの壁」とはよく言つたもので、歩く、走る、の繰り返しでようやくゴールし、その後、自宅に帰るまでに幾度となくあつた階段の上り下りでは進むのもままならな

い状態でした。この時の恐怖から二度とフルマラソンはやるものかと思つたものでした。

ところが、この魅力的な街、ブダペストにはフルマラソンの大会もあります。ハーフマラソンの一ヶ月後に行われるため、この大会をちょうど良い練習の機会にしているランナーの方も多いことかと思います。最

初で最後と思ったフルマラソン参加からかれこれ八年。ハーフの結果次第ではフル再挑戦を：と思い始めた矢先、今大会に同僚が一緒に参 加してくれることになり、互いに触発されながら練習を積むことができました。というわけで、私にとって何度思つたことか。今まで参加した大会のほとんどが、自己ベストを更新したいが故に少しばかり無理をしました。走りだつた気がします。それでも毎年参加していることが私にとっての「ランナーズ・ハイ」なのかな

と思つていました。ところが、そうではありませんでした。九月三日のおそらくあれが「ランナーズ・ハイ」だつたのだろうと、今、思うのです。

をもつて臨みたい。

ちなみに「ランナーズ・ハイ」とは、走つている最中に疲れを忘れない感覚になることをいいます。そして、それは走る速さを少し落とすと起こりやすい現象なのだそうです。

「ランナーズ・ハイ」なるものを感じたことがありませんでした。昨年のハーフマラソン参加中には、練習不足もたたつて、「もうやめたい」と何度も思つたことか。今まで参加した大会のほとんどが、自己ベストを更新したいが故に少しばかり無理をしました。走りだつた気がします。それで

さて、フルマラソンを完走するには、このハーフの大会、「ランナーズ・ハイ」を感じられるくらい余裕

3

そこに至るまでの私の練習はどうだったかといえば…。今年のハーフマラソンでは少しペースを落としそのペースを守ることを目標に、ストップウォッチ片手に走り込んだのでした。更に、フルマラソンをにらんだ場合、自分には「1km五分」という速さが適していると考えました。二1km走るのでゴールタイムは一時間四五分ということになり、昨年より約四分遅くなります。1キロ五分だろうが四分四五秒だろうがどうでもいい数字に見えますが、実はこの一五秒が大きい。二0km走れば、その差は一五×二〇＝三〇〇秒。五分も違つてしまふのです。一kmで一五秒縮めるのは大変な努力を要しますが、言い換えれば遅らせることで随分楽に走ることができるということです。練習場所のマルギット島には五〇〇m単位で表示がありますので、自分にとつて少し遅めのペースで練習を積み重ねました。

そして本番。私は一時間四五分弱のほぼ計算通りで完走でき、終始「ランナーズ・ハイ」に近いものを感じることができました。まだまだ走れそうで、周りのランナーやブダペストの街並みもゆつたりと見られ、当初の目的であるフルマラソン再挑戦の夢もかなり現実味を帯びてきました。ゴール後の脚の状態もよく、翌日にあつた日本人学校運動会の「南中ソーラン」全校練習でも、はりきつて屈伸することができました。ただその分、ハーフマラソンのレースとしては物足りなかつたのも事実です。この不完全燃焼は、さらに私のフルマラソン出場意欲を沸々と湧きたたせました。

「キロ五分」という速さで四二kmを走ると約三時間三〇分。算数の問題のように計算通りいかないのが現実ですが、それでもまた走りたいと感じることができれば最高だと思います。



スタート前の一時

ブダペストの「厄落とし」

辻 太久郎

第二十一回ブダペストハーフマラソン。この大会は、私にとって「厄落とし」であった。

ちょうど一年半前、ハンガリーに赴任して五ヶ月が過ぎた頃、私は病院のベッドの上で激痛にもがいていた。ウイルスの感染で左右の首筋が大きく腫れ上がり、しゃべることさえ不可能な有様であった。身体的苦痛もさることながら、精神的苦痛はさらにそれを上回っていた。赴任早々仕事から離脱し、職場の仲間に多大な迷惑をかけてしまったこと、海外生活にまだまだ不慣れな妻に心配と苦労をかけてしまったことは、本当に辛かった。有難いことに入院中は「職場のことは心配いらぬいか らゆつくり療養してください」の一言に救われ、妻の献身的な看病に支えられた。しかし、全快してからも、

私の心の奥底の「負い目」を拭い去ることはできずについた。

今年六月、同僚であり友人のI氏が、マラソン出場に誘ってくれた。私はそれまで、瀬古利彦（元）選手と三遊亭楽太郎の見分けさえできなかった。むしろ、マラソンを避けていたとさえ言える。テレビなどでたまたまマラソン中継を目にしてすぐ チヤンネルを変え、お笑い番組に興じていた。しかし、今思えばそれは自分の限界に挑戦し、自分との戦いに勝利しようと必死に走り続けるマラソンランナーと不摂生で根性無しの自分とをオーバーラップさせることがへの恐怖感からきていたのではないかとも思う。

マラソン出場の誘いがあつたその瞬間から、私の戦いは始まつた。それは誘いに対して「うん」ということである。「一ヶ月悩んだ」「もう若くないしなあ」、「制限時間内に走りきれなかつたら、ましてや完走すらできなかつたらみつともない」などと、何とか断る言い訳を考える日々が続いた。I氏が再びマラソンの話題を口に出さないように祈つた。にもかかわらず、心のどこかに「断ること三遊亭楽太郎には興味がなかつた。は、何か大きなチャンスを逃すことになるのではないか」という漠然とした不安もあつた。

そんなある日、日本の知人からメールが届いた。「昨年の今頃は、確かに入院したと思うが、今年は大丈夫か。健康にはくれぐれも気をつけて」。そう、私のハンガリーの夏の思い出は「入院」だけなのである。なんという思い出だろうか。初恋に破れた二十五年前のあの夏の思い出よりも切なく悲しい思い出である。いや、初恋の思い出なら「甘く切ない」という形容詞がつくが、入院の思い出は「甘く」もなんともない。していて言

れなかつたら、ましてや完走すらできなかつたらみつともない」などと、何とか断る言い訳を考える日々が続いた。I氏が再びマラソンの話題を口に出さないように祈つた。にもかかわらず、心のどこかに「断ること三遊亭楽太郎には興味がなかつた。は、何か大きなチャンスを逃すことになるのではないか」という漠然とした不安もあつた。

そんなある日、日本の知人からメールが届いた。「昨年の今頃は、確かに入院したと思うが、今年は大丈夫か。健康にはくれぐれも気をつけて」。そう、私のハンガリーの夏の思い出は「入院」だけなのである。なんという思い出だろうか。初恋に破れた二十五年前のあの夏の思い出よりも切なく悲しい思い出である。いや、初恋の思い出なら「甘く切ない」という形容詞がつくが、入院の思い出は「甘く」もなんともない。していて言

院の名譽のために付け加えると、担当医、看護士の方々の対応は最高レベルであつた)。

ところで、誰もがこのような「チ願掛け」をしたことはないだろうか。机で勉強や仕事をしていて紙くずなどのゴミが出る。ゴミ箱は少々離れた所にある。その時、「ここからゴミを投げて、一発でゴミ箱に入つたら、いいことがある!」(大抵の場合一度では成功せず、「やっぱり三回までOKね・・・。」と自分自身に寛大な措置をとるのだが)。というような。そう、このマラソンは、私にとってはまさにこれだつた。「このマラソンを最後まで走りきれたら、『入院(負い目)』の思い出は帳消し!」。トラウマ治療は、原因を放置したり忘れようとしたりするのではなく、それに正面からぶつかり、自ら乗り越えることが大切だ、と耳にしたことがある。私の場合、「入院した」というトラウマを消し去るには、健康

の象徴とも言える「マラソン」で乗り越える以外に無かつたのだ。

同僚に「うん」と返事をしてから、私はトレーニングは始まつた(ここからは、映画「ロツキー」のテーマ曲を頭に浮かべながらお読み下さい)。最初は、マルギット島半周でギブアップ。へとへとになりながら走る私の横を多くのランナーが追い越していく。飼い主といつしょに走っていた小型犬(ヨークシヤテリア)にさえ追い抜かれた時は、さすがにこたえた。追い抜きざま、私をチラツと見上げた時のあの目は、明らかに私を哀れんでいた。「ふん、犬は草食動物と違つて長距離は走れないんだぞ。後で吠え面かくなよ!」と心の中で犬に言つてやつた。しかし、それは負け犬の遠吠えでしかなかつた。その日、その犬に二回、追い抜かれた。

嵐の花火大会の翌日も、なぎ倒された木々をかいぐりながら走つた。倒木を横目に「オレは絶対倒れないぞ!」と自分に言い聞かせた。I氏の励ましやアドバイスにもかなり支えられた。半周が一周に、一周が二周に、と自分の限界点が伸びていく毎に喜びを感じた。そして大会三日前、ついに我が心のライバル、あのヨークシヤテリアを追い抜き、三周半を走りきることができたのだ(ここで、ロツキーが階段の最上階で朝日を浴びながらガツツポーズをする場面をご想像ください。鳩も舞つています)。

大会当日朝、妻が作つてくれたオリーブオイルたっぷりのテカテカ光るペペロンチーノをI氏から頂いた秘伝のアミノ酸ドリンクで流し込み、デザートにバナナ二本を平らげた。食べ過ぎで少し気持ち悪くなりつつもある。燃料は満タン、気力も十分だった。

十時十分前、スタートエリア中ほどでスタートの合図を待つた。緊張感や不安は全く無かつた。周囲のハイテンションなお祭り気分に心が躍つた。D.J.のカウンタダウンが始まつた。「ハーロム！、ケットウー！、エッジ！」。「ワー！」という歓声と共に前方にある巨大なバルーンが回転し始めた。最前列のランナーが走り始めた証拠である。遂にスタートしたのは、それから三分後だった。いかにも多くの人たちが参加していたかを実感した。また、その中の一人であることをうれしく思った。

走り始めてからは感動の連続であつた。アンドラーシ通りのど真ん中を堂々と走ることができた。普段見ることのできない角度から、世界遺産の街の風景を楽しむことができた。沿道からの声援に力をもつた。私は向かれたI氏のご家族と妻の声援「がんばれ！」に対して、私の

周囲のあちらこちらから「ハイ！」、「オース！」「コンニーチハ！」「ガンバリマス！」等の日本語の返事が返つた時は心が和んだ。鎖橋の下を通過した辺りから、ひょんなきつかけで日本企業に勤めるというアンドライシさんと知り合いになつた。息を切らし雑談をしながらいつしょに走つた。西駅を過ぎてからの残り三キロは本当に辛かつたが、最後まで彼が励ましてくれた。

ゴール直前では、先に走り終えたI氏とそのご家族が出迎えてくれた。職場の警備員、ラースローさんも応援に駆けつけてくれていた。そして、待ちに待つ瞬間、ゴールである。二時間二分五十九秒。決して誇れる記録ではないが、私の中ではまぎれもない金メダルだ。いっしょに走つてくれたアンドラーシさんと固い握手を交わし別れ、妻を探した。その姿を見つけた時、私は思わず「エイドリアーン！」と叫んでいた（ちな

みに妻はここで日本人である）。こうして私の「厄」は、払い落とされた。本当に厄が落とされたかどうか、科学的証拠は全くなく、また自己満足でしかないことも重々承知ではある。が、今まで無表情で常にへの字に曲がっていた私の口元が、完走後少しだけ上向きになつたのも事実である。鏡を覗くたびにそれを見止め、厄が落とせたことを確信するのである。しかし、厄が落とせたことよりももつとうれしかったことは、その過程で本当に多くの人々が力を貸してくれたということである。自分は一人ではない、ということを実感できたことは、何にも勝る勇気であり、どんな「厄」をも落とせる力になるのだ。

さて、来年の大会出場の目標は何にしようか。目標を達成し、すつかり不摂生な生活に戻つてしまつた今、おそらく来年の目標は「腹の脂肪落とし」になりそうである。

堪能でききたレース

江澠
泰久

いくつかの草レースに出ていたのは去年のこと。会社からハンガリーの仕事の内示を受けた今年の初めからは、仕事への覚悟の意味も含め、練習と全てのレース参加を封印することにしていた。

夏前にハンガリーに来て早々、盛田先生にお会いした。幸か不幸か、いいや幸運なことに（？）ハンガリーでのランニングレース参加を誘つて頂いた。それが今回のナイキハーフマラソン。「あの誓いはどうする？」という自分の内なる声を押し殺しつつ、「誘われたから仕方がない」と自分に対する言い訳を作つて参加を決意した。もちろん本心では喜んでいたことは言うまでもない。

レース当日。少し曇つてはいたものの、心地よく涼しい絶好のマラソン日和。予定した時間に遅れて到着すると、会場は既に多くのランナーで賑わっていた。和やかな中にも少しピリッとした緊張感。この感じが堪らない。レース前のこの雰囲気は日本もハンガリーも変わらない。見ず知らずのハンガリー人ばかりなのに、皆が同じ感覚を共有する友達の様な気がして嬉しくなる。ただ、会場のアナウンサーの声に皆と一緒に盛り上がりたいところは寂しかった

多くの有名人が参加していた。観光名所をめぐるコース設定が海外から多くの参加者を集めていた。英雄広場を出発し、アンドラーシ通りを通過、ドナウ川沿いをラグマニヨン橋まで南下し、そこからマルギット橋まで戻る。その後はアルコトマニー通り、バツツイー通りを回つて英雄広場に戻る全長二一・一キロのコ

援も、拍手あり、鳴り物あり、思いの演奏あり、とバラエティーに富んだものだつた。ドナウの風に吹かれて歩を進めていると、自分がこの地に住めることを喜ばしく感じた。日本と最も違いを感じたのは、大柄な人が数多く参加していくこと。牛の様な(?)体を動かしながらも、彼らはそこそこのペースで走つていた。消費するカロリーも相当なものだろう。このエネルギーをグヤーシュやフオアグラが支えるということか。やはり日本人とはどこか違う。自分にとって、よい「草レース」

早くハンガリー語がわかる様になりたい！

レース 자체は「あつという間に終わつた」という印象。何せ次から次へと素敵な街並みが現れてきて、走る者を飽きさせない。街の大通りの真ん中を、車を気にせず自分のペースでゆっくり走れることなどこういう機会をおいて他にない。沿道の応援も、拍手あり、鳴り物あり、思い思いの演奏あり、とバラエティーに富んだものだった。ドナウの風に吹かれて歩を進めていると、自分がこの地に住めることを喜ばしく感じた。日本と最も違いを感じたのは、大柄な人が数多く参加していたこと。牛の様な(?)体を動かしながらも、彼らはそこそこのペースで走つていた。消費するカロリーも相当なものだろう。このエネルギーをグヤーシュやフオアグラが支えるということか。やはり日本人とはどこか違う。自分にとって、よい「草レース」

の条件は二つある。ひとつは街全体

がどれだけそのレースを支えてくれ
ているかということ。沿道の応援が

多かつたり、多くのボランティアが
助けてくれるレースは走る者にとつ
てはこの上ない励ましになる。この
気持ちよさが「次回もこのレースに

出たい」という思いに繋がる。もう

一つの条件は走つていて飽きないコ
ース設定であること。経済的、地理
的条件から、行きと帰りが全く違う
コースを走ることはなかなか難し
い。日本だと同じところを周回する
レースも少なくない。

今回のハーフマラソンは両方の条
件を満たすベストのレースであつた。
これまでロクすっぽ市内を見ていた
い自分にとつて何よりの観光の機会
となつた。

レースが終わつてもしばらく会場
は賑わつていた。もちろん疲れはし
たが、盛り沢山の内容を堪能した充
実感の方が大きかった。終わつたあ

とのビールが旨かつたこと、旨かつ
たこと。つまらない誓いを打ち碎い

て下さつた盛田先生に感謝。来年も
必ず出たいと思つた一日であつた。

ところで結果タイムの話？それは
また今度ということで・・・。

九月三日のブダペストハーフマラ
ソンに参加しました。昨年盛田さん
に誘われたのがきっかけで、この大
会に出るのは今年が二回目です。



過去最低記録

菅野 修

ハーフを走るとなると一ヶ月前か
ら気合を入れて練習をします。丁度
このころは、日本に帰国中でしたの
で、あの蒸し暑い中で気合を入れる
ことになります。私は敢て一番暑い
暑さ対策ですが、日本での休暇中は
どうしても就寝時間が遅くなり従つ
て朝寝坊、また夕方はお酒が恋しく
なつて走るよりも・・・、残るは昼
しかないということになります。暑
さの中で長い距離は走れませんので、
せいぜい5Kmくらいになります。

従つてハンガリーに戻つてからが本
格的に距離を走る練習となりますが、
基本的に週末しか走らないため、本

番までは三回しかなく、この間に走る距離を伸ばさなくてはなりません。

私はケチケメートに住んでおり、郊外の公園の外周道路が練習の場です。私が赴任した二年前と比べるとランニング人口はかなり伸びているようで、休日には多くのランナーが練習をしています。ランナー同士がそれ違うとき多くの場合手を上げたり、ハローと声を掛け合ったり、知らない人間同士なのに挨拶を交わします。日本でもそうですが、挨拶好きのハンガリーでは尚更です。だから私はランナーに悪い人はいないと思っています。

三回の週末を利用して、距離を一六 Kmまで伸ばし、本番を迎えるました。昨年は気温が二五度以上あり、暑さでフラフラになりながらのレースでしたが今年の気温はそれほどでもなく、これなら・・・、とスタートラインにつきました。

スタートの位置は自己の予想タイ

ム順に並びます。私は二時間のところに並びました。最前列がスタート

して後方の私達が動き出すまで約七分かかりましたが、一旦動き出してからはスムーズな流れとなり、英雄広場からアンドラーシ通り、鎖橋を渡った五 Km地点までは自己の調子もまままずでした。それからブダ側

河岸を走り、エリジヤベート橋、自由橋の橋詰を通ったあたりから、体が熱くなり足も重くなり始め、ラジマニヨシ橋で折り返し自由橋を渡る途中（一〇 Km強地点）でついにダウン。以降、ペスト側河岸では、走つたり歩いたり、給水所では頭から水を被つて、この繰り返しでヨレヨレの状態。

そうこうしてやっとゴールしたのは、制限時間ギリギリ。ネットで二時間一九分〇六秒と過去最低の記録に終わりました。昨年以上に苦しい大会でしたが、後半コース脇の日本

いいただき、何とかゴールできました。

有難く感謝いたします。ランナーに悪い人はいないし、そのランナーを応援してくださる方は、更に良い人に違いないと確信しております。

二〇〇六年ハーフマラソン敗戦記

村上 義

昨年に続き、今回は二度目のマラソンなので、少なくとも昨年のタイムを上回ることを考えていた。六月の一〇キロレースは良いタイムで走れたので、今回は一時間四〇分を切ることを目指していた。一キロ四分四〇秒を続けければ達成出来るタイムである。一〇キロレースの時にはこのペースが守れたから、気温が低い今回は絶対に達成出来ると思っていた。当日はスタートの二時間前にフィットネスクラブでストレッチを入念に行つた。そしてスタート順も出来

るだけ前の方に並び、後ろから追い越す手間を省こうとした。しかし、現実は期待どおりにいかなかつた。

走り始めて二キロ地点で足の筋肉が痛い事に気付く。そして四キロ地点では既にキロ五分台にスピードダウン。どうしたのだろう、おかしい、おかしいと思いながら、走りつづけるが、体が重たく、スピードアップが出来ない。

きつと前日夜に飲んだ抗アレルギー剤がいけないのだ。去年は花粉症のため寝不足でレースを迎えるが、走り始めると鼻が通り始め、それで息が楽になつて快調に飛ばせた。でも今回も今は眠れないのが嫌で薬を飲んでしまつたために、細胞が活性化されず、体がまだ眠っている状態なのではないか、新しい血が体を巡らないのではないか、などと考え始めた。六キロを過ぎて、もう完走に目標を切り替えた。とにかく苦しいのだ。風景などを見て楽しむ余裕もまったく

くない。時々用意されている給水ボイントでは、水をかぶり、スポーツドリンクを飲み、レモンをかじつた。特にレモンは疲れた体に染みとおるような感じがして、一度に四個も取つて、かじりながら走つた。

一〇キロを過ぎるとタイムは一キロ

六分台に落ちた。もうヘロヘロだ。国会議事堂の前でランナーが一人倒れており、救急車が来ていた。なん

だか他人事に思えなくなり、さらに気持ちは守りに入る。

西駅が見えてくるとあと三キロだ。

西駅の前の陸橋道路を登るが、心臓が飛び出るくらい苦しい。でもあと三キロで終わるのだと思い、がんばつて登る。ゴールの英雄広場が見えてくる頃にはタイムは既に二時間に迫ろうとなつていたが、そんなことは全く構わなかつた。ゴールさえ切れれば良い。

そして何とかゴール出来た瞬間に

あつた。よくもこんな状態で走りきれたものだ。景品でもらうバナナやアイスやジュースを一気に食べて、飲んでしまつた。体が消耗しているのが分かつた。

レースは難しい。コンディションを整えていると思つていたのに、どこかで疲労が溜まつっていたのだろう。そういうえば八月は週末毎に出掛けることも多かつた。まあ、もうとにかくあれこれ考えずに風呂に入つて、ビールを飲んで、飯を食べて、寝ることにしよう。また次回、頑張れば良いではないか。



ゴール直後の村上さん

釣り部

釣り部のその後のご報告

関本 正

よくこう言つて挨拶してます。文字通り訳せないので、強いて言えば「ペテロ万歳」とかいう事になるのでしょうか。

前回は六月の釣行のご報告をさせて頂きました（爆釣の湖に集つた王子さまならぬオジサン達の話）。その後どうなつたの？ドナウ通信秋季号に載せる話なにかない？と、運動部部長殿よりお問い合わせを頂きました。

で、結論なのですが、なかなか皆さんの都合が合わなくて、全員集まつての釣行会は実はやれてないのです。という訳で今回は釣り部活動報告とは行きませんが、四方山話で失礼させて頂きます。

ペトリー・ハイル(Petri Heil)

ドイツ、オーストリア、スイスに行くと、釣り師同士、また通りがかりの人が釣りをしている人に対して、

私自身も入っています)。

騙しのテクニック

さて、このペテロ（英語ではピーターになります）、キリストの一二人徒の一人で、ローマにてキリスト教の布教を開始した、まあ初代ローマ法王というような人なんですね。

で、何故、釣り師に対して皆さんそのような恐れ多い挨拶をされるのかと申しますと、聖ペテロは、洗礼を受けキリスト様と行動を共にする前は、もともとガリラヤ湖の漁師さんだつたんだそうで、それで魚を捕まえる人に対してそういう挨拶をするようになつたそうです。

漁師（釣り師）でも心を改めれば、聖ペテロのような立派な人間になるのですね。そう考えて現釣り部のメンバーを見回してみますと、釣り道に真面目に励む、聖人の素質があるのは三人くらいでしようか（勿論

海釣りから入門した私ですが、川釣り、渓流釣りと遍歴した挙句、今は毛鉤釣り（フライフィッシング）専門二五年となつてしましました。

ルアーライ・毛鉤釣りというのは本物の餌を使わない釣りですので、如何に魚を上手に騙すかが釣果につながります。

前は、もともとガリラヤ湖の漁師さんだつたんだそうで、それで魚を捕まえる人に対してそういう挨拶をするようになつたそうです。

如何にも実物の虫に見えるように作られた針を、疑うことを探らぬ魚、或いはスレた魚の口元へどうやつてうまく持つて行つてパクつと食べさせれるかというところに醍醐味がある訳です。

イメージとしては：

「ある透き通った川藻の茂る清流で、なかなか下流にかなり大きな虹鱒が泳いでいます。その鱒の上流四メートルくらいに川虫に似せたウエットフライ（沈む毛鉤）を静かに着地させます。キヤスティングは難しかったのですが、うまく決まりました。川の流れとともに毛鉤がゆっくり沈んで行きます。毛鉤に変な動きをさせないよう糸をコントロールさせながら水の中の毛鉤を目で追つて行くと、うまい具合に毛鉤が鱒の口元に流れていき、その刹那、鱒の口がパックリ開きました。疑いなく毛鉤をくわえたようです。そこで竿を上げてアワセをくれると、鱒の口元にしつかり針が突き刺さります。無念騙された鱒はびっくり仰天、上流・下流に泳ぎまわり何とか針をはずそうと大暴れしますが、百戦錬磨の釣り師は竿の弾力を使いながら何とか耐え、哀れな鱒は手網の中に納まつたので

した」。

本物の餌でない餌で鱒さんを騙して釣り上げてしまふ、罪深い私ですが、釣りの方で騙しのテクニックを使い果たしていますので、人間社会での生活の方では騙されてばかりです。真剣な釣り師にはお人好しが多いという事でしようか。

釣りの一言

「釣り師と魚は濡れたがる」。釣り師には大酒のみが多いようです。お酒の誘惑が多くなる季節ですが、体を壊さないよう皆さんくれぐれも注意してください。

今後の活動計画

六月の釣り部合宿以降、何回か一緒に釣行してますMさんと私には昔ある程度スキーをやっていたという共通項がある事を発見しました。一〇月も釣行を計画しますが、冬になつたら釣り部スキー合宿をやるべく

さんに実行委員長をお願いし着々と計画を進める方針です。

以上、つまらない話にお付き合い頂き大変ありがとうございました。



ゴルフ部
・
テニス部

秋に思ふ。。

ガルフ部・テニス部マネージャー

小山和夫

当地に来て三度目の秋を迎えるようとしている。秋に寄せる日本人の感情は、本来、食の彩りと同じく奥深い。但し、ここはハンガリー。あらゆる意味で彩りを探すのが難しい。。。当地にてそれが小生の変わらぬ秋の印象。いかがしたものかと思案に暮れるうちに、いくつも答えはスポーツなりけり。

既にシーズン終盤に差し掛かった
とはいえ、澄み渡る秋空に舞うはや
はりゴルフボール。
街にモコモコ出現し始めたドーム
型のテニスコートも冬の到来に万全
を期している。

という訳で、今回は日本人会運動

ゴルフ部からは、度々小生の穴掘りショットにご辛抱頂いております岡崎さんに、テニス部からは土曜日テニス部幹事を務められている杉本さんに寄稿を依頼。それぞれに人間的、情熱的フレーズに溢れ、思わず心熱くなります。

ゴルフに関する記事を依頼されましたが、僭越ながら、ゴルフの難しさ、奥の深さ、メンタルなスポーツ性について私なりに述べてみたいと思います。なお、ゴルフ部は月一回のコンペ及び年一～二回のマッチプレーがあり

部より特にゴルフ部、テニス部から
の秋便りを。

私のゴルフ

岡崎
眞一

日本人会ゴルフ部、第7回マッチプレー選手権結果

- 2006 年

名前 所属 HOP

HOP 名前 所属

名前	所属	HOP
野村 夫人		18
林 三井物産		30
長坂 チンマー		9
安東 ティヤンシ		19
栗原 文政書院		11
野村 ソニー		8
石橋 佐々木商事		30
島川 楽器		16
石原 佐々木商事		29
岡崎 TDK		16
飯尾 大吉		11
優勝：島川、準優勝：ナオエ夫人		
3位：野村夫人、4位：太田		

優勝決定戦 島川選手
ナオエ夫人

3位決定戦 野村選手
太田

16 ナオエ夫人
23 吉井 サンヨー
30 古城 西鉄
3 長坂 学生
20 山田 クラリオン
14 野田 三井物産
21 高濱 東芝シート
15 町野 スズキ
12 太田 NTS
18 岡崎 SENS
23 松浦 スズキ
17 海野 大佳郎

以上23選手

1回戦 2回戦 3回戦 準決勝 決勝 準決勝 3回戦 2回戦 1回戦

- 競技日程 : 6/4 6/25 7/16 7/30 8/20 7/30 7/16 6/25 6/4
 - 対戦日 : 対戦者同士で都合のつく日時、ゴルフ場を選んで適宜対戦して下さい。
対戦結果は、勝者から遅延なく幹事に電話又はメール等で報告して下さい。
注！1回戦、2回戦は上記競技日程の期限を厳守のこと、もし対戦不可能な場合はどちらか一方の選手の不戦勝とし、先にコマを進めることとします。
その他問題点がある場合は幹事裁定とします。
 - 適用 HCP : 対戦者同士、上記 HCP の差の 8 掛け、小数点以下は切捨てとし、ハンデ差の最大は 1.8 とします。

皆さん楽しんでおられます。

ゴルフは男女で楽しめるスポーツ。夫婦で参加されている方は家庭円満のご様子。これから始められる方は奥さんも誘つたらどうでしょうか。

ハンガリーには私がプレーしたことがあるゴルフ場だけでも五箇所あります。遠いところでは一泊になりますが、思い出も多くなり非常に楽しいです。

私が五五才で赴任し、七年を過ぎ、八年目に入っています（年齢のこと

は言いたくないが、記事に関係があるので仕方ない）。私の年代では、若い時、金回りのよいサラリーマンは除き、ゴルフはまだまだ高値の花。多くの人はやっていませんでした。私も四〇才代になつてから、仕事の付き合いも出てきたので始めました。しかし、時々の打ちっぱなしと、年五回ぐらいコースを回る程度でスコアも一三〇も切れた上々でした。

この時から、ゴルフなんか、止ま

つているボールを打つのだし、毎週コースを回ることができればそれで（私でも）九〇を切れると思い込んでいました（この時、五〇才代の後半にゴルフ三昧の人生が待っています）。

ようとは夢にも思わず、仕事一筋の人生と覚悟していました。

一九九九年ハンガリーに赴任し、年会費を払つてしまえば、毎週ゴルフが出来る環境があり、すぐ九〇を切るぐらいは数年でできると思いこんでいました。

結果は、言いたくないが、七年もゴルフ三昧をやつて、未だに、良くつて百を切る程度。恥ずかしい限り。なによりも自分自身に腹がたつてしまたがない（ゴルフの難しさを痛感）。

それなら、まぐれでも良いからこの地で一回九〇を切るまで、帰国しないと心に決めています（多分、職場の人は若い後任が早く欲しい、年寄りをいつまでもしがみつかせているのは問題だと言っている気がします）。

幸いにも、七年経つても、ハンガリ一語は理解できないので気にしないことにしています。しかし、ここまで来たら意地のなにものでもないが）。

今年もゴルフ場がクローズされるまで二ヶ月を切りました。焦りが出てきました（帰国したら、老人クラブのゴルフ談義。昔の自慢話が多いでしょう。私も、せめて、九〇を切ったことがあると自慢したい。それだけです）。

ゴルフの難しさは何でしようか？基本的に飛距離が出ないとダメですが、よく飛ぶ人も飛びすぎて、方向が少しずれると草むらに突っ込んで苦しんでいます（多分、計算上、手元で五度方向がずれたら、一五〇mの飛距離で約一五mそれる）。よって、当然ですが、方向を安定させ、且つ、コースに合わせた飛距離が必要です。小生、飛距離は齡のせいもあり絶望的、残るは、方向を安定させ最短距

離で稼ぐだけ。

次はピンそばに落とすアプローチと思いますが、確かに、回数をこなすと体が覚えるような気がします。しかし、ここに、メンタルな一面が出て、欲が出たり、体が硬くなったり、一八ホールの内、何回か大きなミス（シャンクや地面をたたくダフリ）ができる。

次はパターでしょう。私、平均百ぐらいのスコアですが、内、四〇から四五ぐらいはパターです。よつて、スコアを良くするには、いかにパターを少なくするかです。悪くても、一八ホール×2＝三六以内に。

しかし、パターは多少練習しても上達度が分かりにくく、長時間練習できるものではない。また、練習ではよくつても、いざ本番になると手が縮み、メンタルな弱さがでてくる。

最近、日経新聞で杉原輝雄プロの記事を見た。試合が無い日はパターの練習を一日、二から八時間してい

たそうです。いくらプロでもそこまでやるのかとびっくり。

バンカーショット、ラフからのショット、斜面でのショット等、いろいろ難しさがあり、私のレベルでは、打つてみないと、どこに飛ぶのか分からない。

選手の○さん、高校からの硬式テニス経験者のHさん等、エネルギーッシュな新戦力が加入。

特徴はオシムサッカーのテニス版。「走つて考えるテニス」。

縦横無尽に走つて取れないボールも取る。パートナーとの連携により技術的劣勢を補い、スペースを消すテニス。ピンチをチャンスに変える相手の動きをよく読んだりターンショット。

土曜テニス部

杉本 康志

サッカー日本代表の監督がジーコからオシムに代わったのを契機に世代とシステムが変わった事を反映してか？

土曜日テニスにも同様の現象が見られました。土曜日テニスを長い間支えてきたソフトボール大会で大活躍の○さん、ゴルフ幹事のIさんが帰任。そして土曜午後部初めてのサウスキー選手のFさん、元サッカー

このところ最後までハラハラドキドキで目が離せぬプレーが続出しています。

一〇月からドーム内での冬テニスがスタート。原油高でドーム内の暖房がガス欠になつても、参加者のスタッフミナがガス欠になることはないでしょう。

夏以上の熱気と興奮でサウナ状態になることが予想されます。寒い冬も大丈夫！これをお読みの皆さんも是非体感下さい。

秋季ソフトボール大会

大会実行委員

九月二十四日に、二〇〇六年後期ソフトボール大会が行われた。一三チームの申し込みを受けていたが、デモの混乱を懸念して、日本人学校など四チームが不参加となつた。デモが暴動になるのが夜中であることと、開催場所が街の中心から外れており、警察の方々が今回も警備に当たつてくれることなどを考慮し、大会開催を決定した。

さて当日、素晴らしい秋晴れの中で、天気の心配を全くする事なく、開会式が行われた。毎年後期ソフトボールは、悪天候に見舞われる事が多いので、今年は、試験的に開催日を例年より一週間早めることにした。その功を奏してか、日中は上着も要らない、とても暖かい一日だった。

結果的に九チーム参加となつた今大会。いつもの様に、四面全部を使わず、三面使用でトーナメントを組んだ。

また、それぞれのチームが、試合をしているか、もしくは審判をしていることにし、常に全員参加の形が取れた。

注目株は、前回優勝の三洋電機チームと、準優勝アルパインチーム。そして、二チーム用意してきたAGCチームであった。第二試合で、AGC-VAチームが、住友商事チームに二一対三で、またアルパインチームがAGC-VBチームに三四対〇で、共に大勝し、大会も大いに盛り上がる。準決勝で三洋電機を下したアルパインチームは、

AGC-VAチームとの決勝に臨んだ。しかし、トーナメントの都合上、アルパインチームは連続試合、AGC-VAチームは一試合審判役を挟んでいることでも、体力に差が出た様だ。前試合と変わらず、またアルパインチームの速球ピッチングも諸共せずに打ちまくるAGC-VAチーム。対するアルパインチームは足腰に疲労感が見られ、打撃もなんとなく振るわない。しかし、両チームとも、とにかく楽しんでおり、な

によりそれがソフトボール大会の趣旨だろう。また、日本人学校不参加によつて、他の子供達の「お父さんの勇姿見学」もあつたが、お昼過ぎからは小さい子供達が増え、それぞれにキャッチボールや、トカゲ探しなど、自由に走り回り、家族ぐみのソフトボール大会の良さを再認識した。ちなみに、三位決定戦、住友商事チーム対三洋チームも、決勝と同じく、三洋チームの連続試合疲労が見られた。最終回に挽回を見せた物の、結果一二対六で住友商事チームの勝ちとなつた。

今大会結果は次の通り。

第一位 AGC-VAチーム

(旭硝子チーム)

第二位 アルパインチーム

第三位 住友商事チーム

最多ホームラン（各四本ずつ）

森本 康正 (AGC-VA)

森田 大 (AGC-VA)

前川 昌一 (アルパイン)

最高殊勲賞 佐藤ひろし (AGC-VA)

日本人学校

運動会作文特集

小学四年

ンパンパンパンパンパンパン

優勝

石川由佳子

白組には

「パンパンパン、パンパンパン、パンパンパンパンパン（スカツ）」

観客のみんなから笑いをとること

ができました。

大きな声で言えた運動会

足立達哉

「ういっす」

ぼくは、九月一〇日に日本人学校の運動会に参加しました。

プログラムには、今年初めて加わった応援合戦がありました。僕は学級で、赤組の応援リーダーに選出されました。最初はドキドキしていましたが、練習をするにつれてなれてきました。

そして大会当日、ぼくの出番が来ました。お父さんがビデオでぼくを撮っています。ぼくは思いっきり手をたたきました。



パン食いきょう走

位置について

ピストルをならそうとする声が

します。

「用意、どん」

た。でもゆだんは禁もつ。ウエーブとおうえん歌があります。ウエーブの中心はともきくんです。帰りにわざと「ズデツ」ところび、また笑いをとりました。そして、「V・I・C・T・O・R・Y」「ヴィクトリー」といっせいに言いました。

続いて、おうえん歌を歌いました。おうえん合戦は大せいこうです。ぼくは、ほつとしました。

ぼくにとつては「ういっす」を大きな声で言えたことが一番よかったです。

相手の一人も私より少し早くひもくと中で見ると、いっしょに走る相手の一人も私より少し早くひもくと中で見ると、いっしょに走るから外して走り出していました。それでも、ほとんどかわらなかつたので、私はまた全力で走りました。すると相手をぬかして走ってゴールに着いたとき、先生が私の方を指して言いました。

「一位」

それを聞いて私はおどろきました。

「パンパンパン、パンパンパン、パ

た。うれしかったです。でもそれでも

一位になつただけでよろこんでいても、優勝することはできません。

私は「次からもがんばろう。必ず金メダルを取るぞ」と思いました。

練習で勝つことがなかつたつな引きの番がやつてきました。

「バーン」

つな引きが始まりました。試合は三回戦です。思い切り、手の皮がむけてしまうくらい力を出して引っぱりました。そして、一回戦は勝ちました。そして、二回戦が始まました。また、さつきと同じように思いました。切り引っぱりました。でも二回戦は負けてしまいました。「今のところは同点だ。最後の一回戦は勝たないといと」

「バーン」

そして、つな引きの最終戦が始まました。ずっと引っ張っていたので、手が赤くなっています。でも、ちゃんと引っ張らないと負けてしまふ

まうのでそのまま引っぱり続けました。そして数秒後……。

「バーン」

また、ピストルがなり、私たち白組が勝ちました。

「やつた。」

白組のみんながとびあがりました。そのころは、私の手はもう真っ赤でした。手がいたかったです。でも、そのくらい力を出したんだと思いました。

ついに結果発表がやつてきました。

「一の位、赤組……。」

その後どんどん順に得点が発表されました。

「二百七十たい三百十七で白組の

勝ち

白組が優勝しました。うれしかつたです。

「やつたー。今年の運動会も楽し

ました。ずっと引っ張っていたので、ちゃんと引っ張らないと負けてしまふ

金メダルをのがした運動会

海野 沙月

「位置について、よーい、ドン」

私はピストルの音とともに走り出しました。短きより走です。私は短きより走は毎年ビリです。でも、

短きより走はきらいではあります。なぜかというと、前の人との差で去年よりどれだけ足が速くなつたかわかるからです。こうして比べてみると今年もビリだけど前の人との差はちぢまつた、と思えて次の

運動会でもがんばろうと思えます。

でも短きより走だけで比べないで、他のしゆもくでもどちらだけ上手になつたか比べるときがあります。南中ソーランもそのうちの一つです。練習のときとくらべてどれだけ上手にできたか、というふうにくらべます。

でも今年はあまり意しきしませんでした。もうそんなことを考えて

いられないくらい、一生けん命におどつたからです。南中ソーランは去年もやったのでおぼえるのには苦

ろうしませんでした。でも、いくら去年やつたからといつても、一年前のことなので少し忘れているところもありました。苦手なところもありました。だから、家でも練習しました。本番で大成功したのでとてもよかったです。

南中ソーランはよかつたのです
が、つな引きとうずまきリレーで負けてしましました。うずまきリレーで負けたことは、なぜかあまりくやしくなかつたのですが、つな引きで負けたことはとつてもとつてもくやしかつたです。つな引きは練習のときとくらべて力が出ませんでした。負けたすぐあとは、だれかに八つ当たりをしそうなくらいな気持ちでした。

全部のきょうぎが終わりました。つな引き、うずまきリレーに負けた

のでもう金メダルは取れないとわかつていたのに、得点発表のときには泣きそうになりました。

今年は金メダルをのがしたけれど、またがんばりたいと思います。

リレーの実況者

鬼丸祐輔

「次は高学年リレーです」

司会のぼくが言いました。

「もつともドラマチックでエキサ

イティングなきようぎとなります」

辻先生が作ってくれたげんこう

を感情をこめて読む。

「よーい、ドン」

「スタートしました」

辻先生の言っていたことを思い出す。「実況は見たとおりのことを

話せばいいんだよ」

だよー」と思っていました。不安な

がら家に帰ってお母さんにそのこ

とを話すと、い話をしました。

司会に選ばれることなんてめつたにないことじやない。がんばりなさいよ」と言つて、ぼくをはげました。

そして練習をしてあつという間に運動会当日。時間がたつにつれてぼくはドキドキしてきました。そしてあつという間に高学年リレーになりました。

司会に選ばれることなんてめつたにないことじやない。がんばりなさいよ」と言つて、ぼくをはげました。

司会のぼくが言いました。
「もつともドラマチックでエキサイティングなきようぎとなります」
辻先生が作ってくれたげんこうを感情をこめて読む。
「よーい、ドン」

「スタートしました」

辻先生の言っていたことを思い出す。「実況は見たとおりのことを

話せばいいんだよ」

だよー」と思っていました。不安な

がら家に帰ってお母さんにそのこ

とを話すと、い話をしました。

そして家に帰ったあと、お母さんに「よかつたよ」と言われたのがとでもうれしかったです。ほんの少しだけ自信がつきました。

「やっぱり最初からあきらめちゃだめなんだなあ。チャレンジすることも大切なんだなあ」と思いました。

三三七びょーし

鍊 浩太郎

ぼくは、九月十日に運動会にさんかしました。

まず始めは、おうえん合戦です。白組先行です。ぼくも白組でした。おうえん合戦のさいしょはおうえん合戦の最初はエールです。副リー・ダーミき君が前に出て、リズムとりをやりました。

「フレーフレー白組、フレフレ白組フレフレ白組オー、ハイハイハイハイ」というリズムでみき君以外は

ペットボトルをたたきました。

次にミニげきをやりました。げき

の内容は、赤組が勝つていて、白組が逆転したというものです。その後

は三三七拍子です。そこで、またまたペットボトルの登場です。

おうえんリーダーの三代鳴美さ

んが前に出て、

「バンバンバン、バンバンバン、バンバンバンバンバンバンバンバン」 という音でした。

午後は北海道のおどり「南中ソーラン」です。去年もやりましたが、

途中から入ったので、あまりおぼえられませんでした。だから今年は、がんばろうと思いました。まずは「かまえ」という合図で始まります。

去年よりは上手にできていました

が、だめだった部分もあります。それは「どっこいしょ」というところです。三回ありますが、三回ともちがうポーズなので、こんがらがつてしましました。何とかまちがえずにすみました。来年はもつとがんばりたいです。

南中ソーラン

小林 亜海

運動会で私の心に残った行事があります。それは南中ソーランです。理由はこのハンガリーに来て初めておどったからです。最初はよく分からなくて合わなかつたけれど、練習するとだんだん上手になりました。最後の練習のときにははっぴを着ておどりました。はっぴを着るとひらひらするので、少しおどりにくいなとも思いました。

そして、いよいよ運動会当日がやつてきました。南中ソーランのときがやつてきました。家の人に南中ソーランを見てもらうときです。始まりました。私が一番とくいなところがあります。それは「どっこいしょ

「、どっこいしょ」のところです。ここは一番力を入れておどりました。すごくがんばっておどりました。すると、南中ソーランが一番あせをかいたことが分かりました。がんばるとあせをたくさんかくんだなと思いました。

でも、それがかえって大変なことになりました。すいとうの飲み物がなくなってしまったのです。けれど、がんばって南中ソーランをおどつてよかつたと思いました。先生から初めて、はっぴを着ておどると聞いたときは、「うまくおどれるかなあ」と心配しましたが、運動会当日はうまくおどれたのでよかつたです。

帰りの車でお母さんに

「どのきょうぎが一番よかつた？」と聞くと、

「やっぱり南中ソーランだよ」といました。うれしかったのと、がんばっておどったかいがあつたと思いました。

この運動会で勝ったのは白組です。私は金メダルをもらいました。うれしかったです。来年も南中ソーランに力を入れておどりたいです。

外国で初めての運動会

杉田 夏生

今日は、外国での初めての運動会です。ぼくはこれまで、足のいたみ

をいっぱいおいながら、家でも南中ソーランや二人三脚などを練習しましたが、一番つらかった練習は一年生から四年生までのリレーと短きより走です。

その練習のときぼくは、ひどく左足をいためて走れなくなりました。歩いたり立ったりするのがやつとできるような感じでした。

ある時などは学校には登校できて歩けるけど、長く走るのはできないうきがありました。「運動会まで

にならぬのか」と心配になつてくるくらいのいたみでした。

ところが、日がたつにごとにいたみがおさまってきて長いきよりが楽に走れるようになりました。リレーの練習では一位にもなれるくらいになりました。短きより走もみんなと同じペースで走れるようになりました。

そして、ブダペスト日本人学校の運動会当日。

「次のしゅもくは短きより走です」と、アナウンスされ、いよいよ短きより走がはじまります。気合いを入れてぼくは列にならびました。

「用意、パーん」の音とともに一年生は五十メートル先のゴールに向かっていきます。

いいよいよ三四年生の短きより走です。きんちようして走り出し、前に飛び出しましたがわずかな差で二位でした。

「リベンジ」の言葉しか思いつき

ませんでした。そして午前中さいごのきょうぎ、一年生から四年生のリレーです。

さいじょは同じくらいだったのが、差がついてきました。ぼくはアンカーです。自分のからだ中の力を足におしつけ、走りました。一位でした。そのときのことを思い出すと今も心がはずみます。結果は白組の勝ち。初めての外国での金メダルを手にしました。

りませんが走る前は足がふるえるのです。きんちようしているのでしょか。私と走る人は女子が私を入れて三人で男子が一人です。

私たちのレースがやつてきました。「位置について、用意」ピストルをうつ人がかまえています。「バーン」スタートです。ある男の子はとても早かったのですが、ほんの少しの差で私が勝ちました。その男の子はとても早いのです。だからその子に勝てたことが信じられないくらいでした。

おどつて走った運動会

布留川 麻衣

私の、ハンガリーに来て初めての運動会のことです。運動会のスローガンは「どっこいしょ なかまとがんばれ 運動会」です。私が運動会で一番心にのこつたことは「短きより走」です。私が一番自信のなかつたきょうぎです。私は、なぜか分か

思うには、それだけおどりの世界に入っていたんだと思います。少し覚えていることといつたら、ならんだけれど、その人のまねをしようと思つたときに、私の前の人があ手だったのくらいです。はっぴを着ておどればその分おどりの世界に入りこめるのだと思います。

自分の組は負けたけれど、この二つのことがいんじょうにのこつてあります。

小学五年

けがをしても

島戸 優輝

「はっぴをきておどつたところが、

とてもかつこよくて、日本ならでは

の文化だよね」

と、言つてくれました。何だかとてもうれしかつたです。

私はおどつているときのことは、あまりよくおぼえていません。私が

ぼくは、医者から運動会を見ていいなさいと言われ残念だった。次の日、先生たちが運動会に出られないと知つていっしょうけんめいに考えててくれた。ぼくは、とてもうれしか

つた。

次の日、いきなり、競技運営補助の責任をまかされた。ぼくは、おどろいた。

ぼくは、応援合戦の練習、ちゃんとやつていなかつた。終わつてから先生におこられた。ぼくは、その時思つていた。どうせけがをしているからちゃんとやらなくていいんだ。でも、先生の話を聞いていると、けがをしても応援合戦を全力でやれといつたので、ぼくは練習をがんばりたいです。でも、まだはずかしがつていてるので練習でも家でも練習をしなおして、取り組みたいです。

ぼくはこの一週間で、一年生・二年生・三年生・四年生・六年生・中一・中二・中三、だれよりも大きな声を出し、白組を応援して優勝したのです。

「あまりそういうのは好きじやない」

小学六年 運動会の応援練習

杉田 春花

「簡単でいい」と先生も行つてていたので、人前に出る練習と思つてやってみました。

手を広げて指先を大きく使つて。

「応援リーダーは久世さんと沼田さんですね」

応援リーダーを決める話し合い

で決まつた二人は、みんなが遊んでいる昼休みと放課後に話し合いに出て、応援の過程や役割などいろいろなことを一つ一つ細かく決めてくれることになりました。

運動会の約二週間前、初めての白組応援練習の時に、配役、順番を決めました。最初、私には特に役割はなかつたけれど、応援リーダー達が話し合いの間、三三七拍子のリーダー代理になりました。

「せーの」

「バンバンバン、バンバンバン、バンバンバンバンバンバンバン」

最後にシンとなる瞬間、気持ちいいと思いました。みんなの顔を見て、手を下ろして。

「よくできました」という先生の一言は、聞こえないくらい興奮していました。

「私つてこんなにできるんだ。みんなを指揮するのって楽しい」

と私の中でぐるぐるしていました。次の日も、その次の日も、練習は続きました。私の中で一番できてい



なかつたのは「応援歌」です。

どうしても大声で歌う、ということがきらいでした。合唱とは少し違う声の出し方、のどから出す大声はどうしても出せませんでした。くり返し歌つてくりかえし歌つて、これが私にとつてすごく苦痛でした。何度も歌つてもダメ。

私が大声を出せるようになつたのは、本番の一週間前、全体練習の時でした。同じクラスの赤組になつた友達が、自分よりも大きな声で歌つてゐる時、少し「くやしい」と思いました。その次の日の練習から私は大声で歌えるようになつていました。我を忘れてさけぶ、少しづつでききました。

本番が近づくにつれて、チーム全体の団結力が強くなつた気がしました。みんなががんばったからだと思います。

私はこの運動会を通して、みんなで協力することの楽しさ、大切さを

学ぶことができたと思います。だからこれからは最初から全力で何ごとも尽くしていきたいと思ひます。

中学生の感想記

三代 鳴美

運動会は白組が優勝したことが最高の思い出です。競技もみんな力を合わせることができたからトロ

フİYEをもらうことができた。協力することの大切さを知つたし、こんなに達成感のある行事は私の中で初めてだつた。白組のキャプテンはいられたことは私を成長させてくれた。

八代 大成

結局赤組は負けてしまいましたが、とてもよい運動会でした。何と

いっても、キャプテンの八代君と三代さんは立派だと思います。小学校一年生から中学生まですべてを引っぱつていく存在だからです。私は来年みんなを引っ張つて行かなくてはならないのに、あまりキャプテンの手助けができませんでした。私の父母や先生方は、とてもよく頑張つたと言うけれど、私は私自身を許せない気持ちでいっぱいでした。私はもっとみんなを引っ張つていつ

佐藤 陽香

日本人学校の運動会は初めてでどんなものなのか、日本にいるから思つていました。私は赤組でした。キャプテンではなかつたけれど、自分の組をリードしていくかなればならない存在でした。全体のれんしゅうは白組よりも先に始めましたが、白組はとてもよい応援合戦を見せてくられました。

日本人学校の運動会は初めてでどんなもののか、日本にいるから思つていました。私は赤組でした。キャプテンではなかつたけれど、自分の組をリードしていくかなればならない存在でした。全体のれんしゅうは白組よりも先に始めましたが、白組はとてもよい応援合戦を見せてくられました。結果赤組は負けてしまいましたが、とてもよい運動会でした。何といつても、キャプテンの八代君と三代さんは立派だと思います。小学校一年生から中学生まですべてを引っぱつていく存在だからです。私は来年みんなを引っ張つて行かなくてはならないのに、あまりキャプテンの手助けができませんでした。私の父母や先生方は、とてもよく頑張つたと言うけれど、私は私自身を許せない気持ちでいっぱいでした。私はもっとみんなを引っ張つていつ

てよかつたのではないか。キャプテンの二人はこんな難しいことに取り組んでいて、立派だと思わざるを得ませんでした。来年こそは自分自身に悔いの残らない運動会にしたいと思います。

小松幹

僕のエールで気合いを入れた。年に一度の運動会で皆の心は「完全燃焼」だ。練習では勝てなかつた綱引きもチームワークを見せつけて勝利。結果は白組の圧勝であった。今年の運動会は中学生が中心となつたものだつた。



島戸美月

私は気合いが入つていました。練習も本番もベストを尽くしました。優勝のために…。でも結果発表を聞いたとき、私は何とも言えない気持ちになりました。負けて悔しいです。金色のメダルをさげて家に帰りました。

兼子健汰

ぼくは白組の応援リーダーだった。最初に応援合戦のだいたいの順序を決め、白組全体で行つてみると、声が小さく心配になつた。一回目の合同赤白応援合戦。二回目、三回目、だんだん声が出るようになり、何より心が一つになつてきたと思った。運動会当日、まずは白組の応援。声もよく出ていてまとまりがあつた。心が一つになれたのだと思う。白組選手はみんな最後まであきらめずにがんばついて、何より見ている

堀川智生

人の応援する姿が素敵だった。赤組白組が一つになる「南中ソーラン」は自分のできる限りを出し尽くしました。リレーなどではみんなでがんばって走り抜いた。白組が優勝してうれしかつた。だが何よりすばらしい運動会になつたのは、赤組白組ともに心を一つにしてがんばられたからだと思う。また自分に任された役割を、責任を持つてできたことがぼくの成長になつたと思う。

赤組の席について頭がシヤキッとしました。おかげで、応援合戦の時に思いきりこけることができました。パン食い競争は得点競技ではないけど、一位になれてうれしかったです。今年は負けたけど、来年は勝ちたいです。

みどりの丘日本語補習校

五年生作文

五年生は日頃から言葉について不思議に思っていたこと、疑問に思つていたことをレポートにしてみました。

ハンガリー語の言葉と日本語の言葉の発音が似ていてること

中沢 明子・クララ

〈調べた理由〉

わたしはハンガリー語の言葉と日本語の言葉の発音が似ていてることを調べました。すごく遠い国なのに、似ているのはおもしろいと思つたらです。

〈調べたがら〉

ハンガリー語の言葉と日本語の言葉の発音が似ていること。

（まとめ）
こんなにたくさんあつたのにばかりです。
つくりしました。まだあつたら調べたいと思います。

〈調べた内容〉

	日本語	ハンガリー語
1	ぼう	bot (ボトウ)
2	笛	furulya (フルヤ)
3	ぐるぐる回る	gurul (グルル)
4	白鳥	hattýú (ハッチュー)
5	いくら	ikra (イクラ)
6	良い	jó (ヨー)
7	塩が足りない	sótalan (ショータラン)

大すぎなどうぶつ

伊達 クリストチアンネ

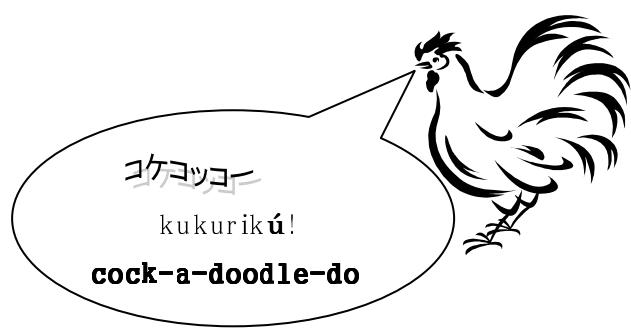
〈調べた理由〉

わたしはどうぶつが大好きです。でもいろいろ国のしゃべりかたもすきです。わたしは四ヶ国語をしゃべります。この四ヶ国語のいろいろなどうぶつの名前をさがしました。



〈調べた事がら〉

日本語とハンガリー語とスロヴェニア語と英語でのいろいろなどうぶつの言いかた。



〈調べた内容〉

	日本語	ハンガリー語	スロヴェニア語	英語
1	犬	kutya	Pes	dog
2	ねこ	cica	Mačka	cat
3	魚	hal	Ryba	fish
4	りす	mókus	Veverička	Squirrel
5	かえる	béka	Žaba	frog

〈まとめ〉

調べるのは楽しかったです。なぜ楽しかったかというと、だつていろいろな国ではちがうしやべりかたをするし、あいさつも名前もちがうからおもしろいです。今からいろいろな国のたべものの名前を調べます。いろいろな花の名前もしらべます。

私がブダペスト補習授業校に入学したのは一九九一年の四月のことでした。当時は週三回の頻度で授業があり、ほとんどの生徒がアメリカンスクールに通っていたため、学校が終わると補習校からのお迎えのバスに皆で乗り、補習校に行つたものでした。

平日は三時半から五時半くらいまで算数と国語を学び、土曜日は音楽・理科・社会などの授業を受けていました。補習校は中学部まででしたが、全体の人数が少なく、最も多い小学生が五人ほどで中学生は全員で三人、先生方も全員で四人しかいらっしゃいませんでした。そのため、先生方も含め、小学一年生から中学三年生全員仲が良かつたのを

補習校の先輩からの手紙

天野 謙子

世界に羽ばたく補習校の絆

覚えています。

私の一番の補習校の思い出は、年長者が年少者の面倒を見ると言う年齢を超えた縦割りの仲の良さを重視した運動会や合宿、餅つき大会などのイベントです。運動会では縦割りのチームを作り、対決し、時には先生や両親も巻き込んだパン食い競走を含む競技も数多くあり、毎年楽しくて仕方がなかつたのを覚えていました。

年に一度の合宿でも、縦割りの小さなグループで一緒にカレーを作ったり、肝試しをやつたり、宝探しをしたり。年長者は年少者を妹や弟のように面倒を見、年少者は年長者を信頼する、今でも心が温かくなつてくる様な思い出がたくさんです。私は年少だったので一々六歳年上のお兄さんお姉さんが面倒をみてくれ、楽しく安心して毎日を過ごしていた記憶があります。誕生日会などにも呼びあって、一段と楽しくなりました

た。こうした家族全員動員のイベントも、全て父兄の協力を得て行われていました。

さらに、補習校やアメリカンスクールの授業のおかげで遅れを感じることもなく小学四年生で日本の小学校に転入する事が出来、また補習校で日本の文化、日本人に囲まれた生活も体験していくため、たいした力も必要ない仲間たちとの絆は強く、割とすぐなじむことが出来ました。

その後、日本での中学受験を経て、再び父の転勤に伴い一九九八年、中学生二年の夏に英国へ行くことになりました。英國では現地校でしたので英語の授業についていくのに苦労しましたが、ブダペストのアメリカンスクールで使っていた英語の記憶が少しづつ戻り言語の壁を再び乗り越えることが出来ました。ロンドンの補習校にも通い続け、高等部まで卒業しました。

現在は、英国の大学に通つております。



昨年一年はカリフォルニアの大学に交換留学するチャンスにも恵まれました。こうした積極性はハンガリー時代に育まれた国際性とガツツによって可能になったのだと思います。

ブダペストの補習校で出会ったかけがえのない仲間たちとの絆は強く、いまだに私が一時帰国する度に集まつたり、また世界の色々なところで出会い、あの頃と同じように楽しく騒いだり、就職や大学の近況報告や情報交換をしたりしています。

現在、私が受け取った幸運に恵まれブダペスト補習校に通つてている皆さん。これはラッキー・チャンスです。そこで、大切な出会いをし、ほかでは得ることの出来ない様な自分なりの素敵な経験をして、世界に羽ばたいて行って下さい。

創
作

第六話 「しろ・と・くろ」

岩井 孝博

ど冠婚葬祭の裏方を支えている職業も珍しい。

「板さんは毎日おいしいものたべ
れて、いいね」って誰かが言うと、「家
じや何食つたらいいか、迷うんじやな
いか」なんて心配する人も居る。

スツコト・スツコト・スツコトコン
スツコト・コトコト・スツコトコン

スツコト・オカシイ・スツコトコン
世間様にはやはり、一年の長とか、
餅は餅屋なんていわれるようには、その
道に通じている人と、そうじやない人
が居るもんですが、中には、知つてゐ
ような事を言つてる割に、口先だけも
おります。

「一番の好みですか」って、ま、寿司とか鋤焼きなんていうかと思つたら、即席ラーメンだつて言うんで、板前さんは食べる素人かもつて言つたら。

偉そうにしている亭主なんか、かないません。小鼻をヒクヒクさせている子を見れば、肺炎か、下あごに自分の手の甲を当ててやつて熱を見る。ほてつた顔を見れば、風邪でも引いたか、何もなくとも、気の休まる事がないプロなんです。

ガム公が親方の手元に居たのが十年、日本を流して十年、板前のプロと言われて歐州を流して二十年。還暦を

ガム公が親方の手元に居たのが十年、日本を流して十年、板前のプロと言われて欧洲を流して二十年。還暦を目前に帰国したのが二年前。グミ助がガム公と同じ板前になつて、早いもん七年。

始末の悪いのが金力は有るんですが、管理が素人の人。他人は金力に頭を下げて いるだけで、金力の持主に頭を下げる て いる訳じやないことを知りません。本人もこの勘違いに気が付か

ない。素人経営者、タイコ持ちなんてなアこの手の人から金を引き出すプロ。音楽絵画プロテニス、ま、世の中には色んなプロがありますが、板前ほ

され、塩を使いこなすのが板前さんなんだそうです。これと即席ラーメンがどんな関係なのか、私には分かりません日本人は仕事の為に食うと言いますが、ユダヤの人は食う為に仕事をする食べるプロ。ま、卵と鶏どっちが先かみたいなもんですが、やはり食いたいから仕事をする方が納得できます。子供に関しては母親に、かないません、知ったかぶりのお医者様だとか、

四十の手習いと言いますが、掃除洗いの追廻を二年、焼き方煮方、立ち回りを行つたり来たりで五年が過ぎ、なんとなく素人に毛が生えた格好となり、客前のカウンターに出始めたのが、つい三月前。

今日は天気もいいので、近くの喫茶店にふらりと、チョコ坊とガム公が連れ立って来た。

た金がなくなるのが早いか、死ぬのが

早いか知らねエが、ユツクリしたいつて言うのを、チヨコ坊が引き込んだ。

どこの国でも、男と女に関して、女はプロだと、つくづく思ったガム公。

そして今、二人の心は十九・二十歳の気分となってる。

「ねね、なんか浮かない顔で、グミ助がシヨボクレ居るけど・・・」

「どこに、あ、一人じやないか、どうかしたかな」

「声、かけようかい」

「まで、向こうで気が付いて、こっちに来るまで」

こうして、二人がテーブルを挟んで、額と額がくつつくようにして注文したコーヒーを飲んでいますが、いつ、グミ助が来るかを探っている。

二人は額だけじや足りなくて、テーブルの上で、指を絡めあつている。

その二人に声を掛けにくそうに、グミ助が側に立ってきた。

二人は今さらのようにグミ助を見

上げた。

意地悪も、手めエを磨いてくれている

「お、誰かと思つたら、ま、座れ」「どうしたの、しょぼくれちやつて」「兄イ聞いてくれよ、最近の親方、訳の分からん怒り方をする」

「親方がか、怒られたんじやなくって、叱られたんだろ」

「どつちだつておんなしだい」「いや、違うな」「どこが、どう違うんだい、ガム兄イ」

「いいか、怒るつてなア、手めエの気分だが、叱るつてなア相手の明日を思つての事だ」

「そんなの、知るかよ」「そこだ、グミ助が親方から言われたことを、明日の為と思うか、逆恨みするか、全部お前次第だ。どんな嫌な事とか、問題でも、法律で解決できるものは法律に任せればいい、世間の判断が欲しければ世間に任せればいい、だがな、人の法は手めエの心で決まる。世間はとやかく言うだけで、だアれも責任を取っちゃくれねエ。嫌がらせ、

と、思えるかどうかだ。あこぎな事をやつて、口先で言いつくろつても、いつかはばれる。それが人の世の法だ。悪意の人が滅びる。悪意を善意に取つたお目エは榮えるんだ」

「そんな事つてあんのかよ」「ある」「うかよ、チヨコ姉エもそう思うかい」「ガムちゃんは神でも仏でもない人だから、馬鹿と利巧を併せ持つてゐる、でも、今のガムちゃん、利巧を言つてると思うよグミ助」「そうか」「で、何があつたんだい」「ん、しろがころがつたつて、しろのしたにヤ、叶うもんじやねエつて怒られたんだが、何の事かさっぱり分からん」「その時、何があつた」「昨日の事だ、常連客が来たんだが、何も注文がない、で、俺がメニューを

やつたら、スッと帰つちまつた。帰りがけ店長に客が、金を追つかげ始めたねつて言つたらしい。親方に告げ口しやがつて」

「常連客か、客も偉いが、いい親方じやねエか、白が転がつてんじやないといつたんじやなく、素人が玄人ぶるなといつたんだ。板前七年生ともなれば、親方にさえ文句を言いたくなるもんだ。どうして親方が親方なのか、考えもしない。腕はまあまあでも、あの親方はいい、と言われる人が居る。それは、客の心と健康を考えてやつてる親方だからさ。そういう親方の作つた冷たい刺身も、客の心にはあつたかいもんさ」

「なんとなくだが、分かる」

「それで、いい」

「兄イ、素人と玄人つてどこが違うん

だい。場合によつちや家庭の奥さんが俺達より、美味しいもん作つてるぜ」

「そうだな、奥さんは、料理のプロだと思つて居ない分、奥さんの味で、食

べる人を納得させるんだろう。それが家庭の味であり、お袋の味じやないのか」

「だつたら、料理屋の味は誰の味なん

だい」

「奥さんの味を納得するのは、まず家族、そして親戚知人だろうが、これには義理が絡んだ納得が入る特定多数

だ。ところが料理屋となれば、義理も人情もねエ、美味か醜味だ。醜味な料理屋に、義理人情で金を出してまで食いに来る奴なんざ、よっぽどの馬鹿だ。料理屋が相手にしているのは不特定多数の客。

それに応えるのが料理人・板前だ。読み、読みだな、どれだけ先を、深く広く読めるかだ。空手だつて将棋だつて、次を考えて今、何をするかだろ

「段取りか？」

「そうだ、芋一つ仕入れるにも、どうしたら客に喜んでもらえるかと思つてやれば、選ぶ目つきが変わつてくれる」

「分からん」

「板前つてなな、板場の前に立つて板前なんだ。世間の川に流された板を追つかけるのが流れ板前。それのどこがいい」

「流されねエ、板の前がいいだろ」「話してあげたら、ガムちゃん」「ん、今度な」

ソロソロ一服、アラドッコイ。

「いい年こいて、伊達に使いツバやつたんじやねんだな、俺」

「そよグミちゃん、初めの頃は飯が追つかけてくるなんて、馬鹿言つてたけど、俺の焼いた鰯、客がどんな顔で食つてるか気になるつて言つてたじやない」

「気になるようになつたか、エゲツねエ経営者の店じや、親方だつて客の顔色を気にしなくなる。皆で店を食い漁つて、知らん顔だ。子飼いと仲良くして、いい外様で長く居たがいい、流れ板にはなるな」

「板前つてなな、板場の前に立つて板前なんだ。世間の川に流された板を追つかけるのが流れ板前。それのどこがいい」

「分からん」

「話してあげたら、ガムちゃん」

<資料> 書評『コルナイ・ヤーノシュ自伝』(日本評論社、2006年刊)

本年 6 月に翻訳出版された標記著作が、全国紙・週刊誌などで紹介され、大きな反響を呼んでいます。コルナイはハンガリー人学者のなかで、もっともノーベル賞に近いと言われています。書評の中から、「朝日新聞」と「日本経済新聞」に紹介されたものを資料として掲載します。

盛田 常夫

<書評> 「コルナイ・ヤーノシュ自伝—思索する力を得て」

[掲載] 朝日新聞、2006年8月20日付け朝刊

[評者] 高橋 伸彰（立命館大学教授・日本経済論）

■「現実にこだわる」理論経済学を貫く

本書の著者コルナイ・ヤーノシュはハンガリー生まれのユダヤ人であり、社会主義経済の批判的研究で高い評価を受けた経済学者である。著者の家族はナチ支配による迫害を受け、父はアウシュビッツに送り込まれ、兄は労働キャンプに「狩り出され」て他界した。辛うじて生き延びた著者は、ソ連軍がドイツ軍とハンガリーの矢十字（ファシスト）党を粉碎した時には心の底から解放感を覚えたと言う。

戦後は共産主義者として党の機関紙でペンをふるう。しかし、取材を通して計画経済に内在する問題（不足の恒常化）に目覚め、研究者に転じて、なぜ社会主義経済の理論通りに計画や管理が機能しないかをテーマに学位論文を書いた。その直後にハンガリー動乱が起き、ソ連軍は今度は戦車で民衆を鎮圧し、ソ連の傀儡（かいらい）と化した党・政府は容赦ない肅清を続けた。

マルクス主義に批判的だった著者も執拗（しつよう）な尋問を受けたが、ハンガリー経済の「現実」に依拠した研究を続けるために「国を離れなかった」。

理論経済学者の著者が「現実」にこだわったのは、本質的な点で現実と理論が乖離（かいり）している場合、修正されるべきは「理論」だという信念があったからだ。それが一般均衡論の非現実性を批判した『反均衡の経済学』、および計画経済の問題を「吸引（供給不足）」や「ソフトな予算制約」で分析した『不足の経済学』（未邦訳）などの主著に結晶している。

著者の分析は生産性の面で資本主義が社会主義を凌駕（りょうが）した背景にも及ぶ。不足とは正反対の過剰（モノ余り）が、生き残りを賭けた企業による、新技術や新製品の開発を促進したと指摘するのだ。

しかし、冷戦の終焉（しゅうえん）に伴う体制転換でハンガリーにも誕生した資本主義は、かつて人々が期待した社会主義と同様にユートピアではない。ハーバード大に招聘（しょうへい）されたときも 1 年の半分はブダペストに戻り、無給で研究することを条件にした著者は、権力の恐怖や富の誘惑に抗し、「思索する力を得て」、78 歳の今も自らの眼（め）で見た現実を基に新たな課題に取り組んでいる。

＜書評＞ 「この一冊」－『コルナイ・ヤーノシュ自伝』

[掲載] 日本経済新聞、2006年7月23日付け朝刊

[評者] 青木 昌彦（スタンフォード大学名誉教授）

■ 経済学者の深く豊かな多面的思考

コルナイは、旧共産主義国ハンガリーの生んだ、東西を越えて巨大な影響力を持つ経済学者である（昨年まで世界経済学会連合の会長であり、また近年常にノーベル経済学賞の受賞者に擬せられている）。

作者は「メモワールとエッセイ集の合体したもの」と自身特色づける本書が「経済学者や他の専門研究者、年輩（ねんぱい）者と若者、ハンガリー一人と外国人、東の人々と西の人々」などに、ひろく手に取られることを期待する。実際本書を一つの視点やテーマにのみもとづいて評価することは難しい。多面的で、豊かな構造と内容を有しているからである。少なくとも次の三つの側面がある。

一つは「ドナウの真珠」ともいわれるほど文化的に豊かだった国のナチによる突然の支配とユダヤ人の迫害（作者の父親を含む）、素朴な献身から分析的批判の対象へと転じていく共産主義体制の現実、前首相を含んだ数百人の処刑者と20万人に及ぶ亡命者を生んだ1956年のハンガリー革命、そして共産主義体制の崩壊と市場経済への移行という激動を身をもって生きた知識人による証言と歴史的洞察という側面である。

第二は、東欧とハーバード大学という西洋経済学のメッカの間を行き来しながら、マルクス主義、新古典派経済学理論の枠組みと、生きた経済の観察との間のギャップに悩み、そのなかから独自の体系を次々と構想していく、その思考の軌跡を描いた（私的）学説史としての側面である。彼による「ソフトな予算制約」という概念は、共産主義体制の崩壊を理解する鍵概念であったばかりか、日本の金融・財政危機の原因やその帰結を理解する上でも有用だ。欧米の大学や学界の風俗を垣間見るという面白味（おもしろみ）もある。

本書の原題は『思想の力を得て』であるが、政治権力や経済的富、マスコミなどから距離を置くことによってこそ、発揮され得る思想の力にかかる倫理学的省察と、個人的思想の生成・危機・再生の過程を扱った創作心理学ともいべき三つ目の側面も見逃せない。

かなりの時間、読書に没頭するに値した本格的な知的作品である。

なお、毎日新聞（6月18日付け朝刊）、読売新聞（9月25日付け朝刊）の書評欄で紹介されたほか、週刊「東洋経済」（9月2日号）、週刊「ダイヤモンド」（9月16日号）でも紹介されました。これらの書評はすべて、<http://morita.tateyama.hu> にアップロードされています。

本書をお読みになりたい方へ、お貸しいたします。連絡は盛田までメールでお知らせください（morita@tateyama.hu）。

「ドナウ通信第 69 号」(2006 年秋季号)

発行者 ハンガリー日本人会

発行年月日 2006 年 10 月 15 日

発行代表者 田路 亮三

編集責任者 盛田 常夫

表紙デザイン さくらデザイン (Inner Design Bt.)

1021 Budapest, Bogár utca 7

写真・裏表紙デザイン Kármán Studio Bt.

日本人会事務局 連絡先

Magyarországi Japánok Szervezete

TEL/FAX: +(36-1)373-0400

1054 Budapest, Zoltán u.13

P.O.Box: 638 H-1365

E-mail: nihonjinkai@nihonjinkai.hu

ドナウ通信編集部

TEL/FAX: +(36-1)361-4469

E-mail: morita@tateyamahu